

春のよみこび

一時間のクラシック 其の七
～日本のうたを集めて

「一時間のクラシック」は休憩のない、一時間完結のコンサートシリーズです。クラシック音楽に詳しい方にも、そうでない方にも楽しんでいただけるよう、毎回様々な共演者とともに大切に開催してきました。

第七回目は、ゲストに札幌のご出身で日本歌曲の第一人者、ソプラノ関定子氏を迎え、日本のうたで紡ぐひとときです。氏の膨大なレパートリーの中から、橋本国彦の大作『舞』、石井歓のモノオペラ " 女はすてき " よりアリア『無駄遣いの歌』など、生で聴く機会の少ない作品を組み込みつつ、格調高い歌曲から民謡、流行歌まで充実のプログラムでお送りします。

しみじみとした情感、時々顔を出すコケティッシュ、^{うたい}謡調のメロディーや和のリズム…多様な日本のうたの可能性を、繊細な言葉さばきと高音域まで美しいソプラノの響きで、どうぞお楽しみください。

雪がとけたよろこびの春に、ふきのとうホールでお待ちしています！



関 定子 (ソプラノ)

Sadako SEKI
Soprano

オールマイティに歌える実力派ソプラノ。声域はドラマティック・コロラトゥーラで、低音から超高音までカヴァー出来る豊かな声と、高度なテクニック・音楽性を持っている。'77年、一年間でヨーロッパの主要国際声楽コンクール、ヴェ

ルディー国際声楽コンクール初め 6 つに関して優勝など 6 タイトルを獲得、実力を示した。

オペラはデビュー以来、ドイツやイタリアもの、邦人作品と幅広く歌っている。これまでに、モーツァルトの様々な作品をはじめ、《額田女王》《春琴抄》《黒船》《蝶々夫人》《ドン・カルロ》《ナブッコ》《ランメルムールのルチア》《マクベス》など多数の舞台に主演、出演。2000年以降は年を重ねるにつれ、歌うに " 難役 " とされる《ノルマ》《トゥーランドット》《ルチア》《椿姫》《アイダ》などのタイトルロールに果敢に挑戦、年齢を超えたその成果を見せつけ、聴衆を驚かせている。

一方、もう一つのメイン・ワークは〈日本歌曲〉を歌い、教え広めること・・・歌うジャンルは驚異的で、1990年代から収録された20枚に及ぶ日本歌曲のCDは、この世界へ多大な貢献をしてきた。中でも、100曲から成る『山田耕筰歌曲集』（'94年〈日本レコード・アカデミー賞〉受賞）は、日本人の重要な財産となったのではなかろうか？ '94年にはニューヨークのカーネギー・ホールで歌い、大成功！日本歌曲の可能性を海外に知らしめた功績は非常に大きい。'91年のリサイタル（日本民謡にルーツを求めて）で文化庁芸術祭賞を受賞。'94年のリサイタル（藤井清水を歌う）で再び文化庁芸術祭賞を受賞。

また、教える側に立っても、そのレパートリーの広さから多数の歌い手を送り出し、活躍させている。

関定子・・・喜寿を過ぎたとはいえ、今の日本では彼女の長年の経歴・現在の実力、等々を鑑みて、その存在が再確認されるべき歌手といえる。

2024年6月24日（月）東京四谷の紀尾井ホールにて、ヴェルディ作曲がら「仮面舞踏会」にアメリア役で出演予定。

History

- vol.1 『五線にしたための感謝と敬愛～最後のソナタ』
共演 クラリネット 村井 祐児（東京藝大名誉教授、元N響首席クラリネット奏者）
2017年7月 パームホール（蘭越）
- vol.2 『Romance ロマンズ』
共演 フルート 波戸崎 操
2018年8月 ザ・ルーテルホール（札幌）
- vol.3 『あこがれ』
共演 ヴァイオリン 榎山 久美
2019年8月 ザ・ルーテルホール（札幌）
- vol.4 『Prism プリズム』
共演 マリンバ 宮本 典子（アンサンブル・ノマド 打楽器奏者）
2021年8月 きたこぶしホール（札幌）
10月 音楽工房ホール（浜松）
- vol.5 『イノック・アーデン～語り手とピアノのための』
共演 朗読 則竹 正人（バリトン、札幌大谷大学名誉教授）
2022年7月 ザ・ルーテルホール（札幌）
- vol.6 『ピアノ・トリオ～パリをうたう』
共演 ヴァイオリン 榎山 久美
チェロ 金子 鈴太郎
2023年9月 音楽工房ホール（浜松）
ザ・ルーテルホール（札幌）



大家 純子 (ピアノ)

Junko Oie
Piano

静岡県出身。国立音楽大学ピアノ専攻卒業後、モーツァルテウム音楽院（ザルツブルグ）に学ぶ。

これまでにソロ、室内楽、伴奏ピアニストとして多数のリサイタル、コンサートに出演。CDレコーディングにも参加。中でも長年傾倒してきた歌曲の分野では多くの声楽家と共演、マスタークラスでの公式ピアニストも

務める。

2017年よりコンサートシリーズ「一時間のクラシック」を継続中。Vol.5 朗読劇イノック・アーデン（A.L. テニスン原作/R. シュトラウス作曲）では、オリジナルの日本語訳台本も手がけた。

女声合唱団リラ、アンサンブル煌、各常任ピアニスト。岩内在住。